
プレスリリース

英ロンドン、2024年5月13日 06:00

2024年プラチナ市場の不足予想を15トンに上方修正。持続的な自動車および工業需要が軟調気味の供給を上回る

- 2024年第1四半期のプラチナ総供給量は統計開始以来2番目の低水準、通年予想も過去最低に近い
- 自動車需要の予想は2024年第1四半期、通年ともに7年ぶり高水準
- 宝飾品需要は2024年第1四半期5%増、インドにおける前年同期比53%増がけん引
- 工業需要は2023年の過去最高からは減少したが、依然としてコロナ禍前の平均を17%上回る
- 2024年の投資需要は2年連続でプラスを維持、中国における地金・コイン需要が下支え

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC®）は本日、2024年第1四半期のPlatinum Quarterlyを発表し、2024年の通年予想を修正しました。

2024年第1四半期の世界のプラチナ需要は、自動車セクターの需要が堅調に成長したほか、宝飾品需要が上向いたため、前四半期比で増加し、62トンとなりました。一方、プラチナの総供給量は、鉱山供給およびリサイクル供給の低迷が続いているため、統計開始以来2番目に低い水準である51トンに落ち込みました。その結果、市場は11トンの不足となりました。

通年の総供給量は、2023年の低水準から横ばいの221トンと予想され、リサイクル供給量の改善（前年比5%、3トン増）が、鉱山供給量の3%減（5トン減の170トン）で相殺される形になります。一方、需要は236トンと堅調で、市場は15トンの不足が見込まれています。このため、プラチナは2年連続の不足となります。

リサイクルの逆風は和らぐ見込み、一方で鉱山供給に課題が残る

2024年第1四半期の世界のリサイクル供給量は、自動車と工業の両分野でリサイクルの低迷が続いたことから、12トンと過去最低水準にとどまりました。2024年通年の世界のリサイクル供給量は、使用済み自動車触媒の供給が回復を始めるため、5%増の51トンになると予想されています。さらに、中国における宝飾品需要の緩やかな回復が、リサイクル供給にも影響をもたらすことが予想されます。新規購入資金を調達するために保有している宝飾品の売り戻しが増加するためです。

2024年第1四半期の精鉱生産量は前年同期比4%増の38トンとなりましたが、これは南アフリカにおける生産量が前年同期比5%増となったことが主因です。ジンバブエの生産量も5%増加しましたが、北米の精鉱供給量はほぼ横ばいでした。ただし、2024年通年のプラチナ鉱山総供給量は、2%減の170トンになると予想されます。南アフリカの供給量は、コストを主因とするインフラ閉鎖により2%の減少が予想され、一部の拡張プロジェクトによる増加が相殺される見通しです。一方、ロシアの生産量は、計画的なメンテナンスと、欧米の制裁措置が事業運営に与える影響により、9%の大幅減となり、数十年ぶりの低水準に落ち込むと予想されます。

地上在庫は2年連続で減少が予想され、さらに12%減の113トンと、4年ぶりの低水準になる見通しです。

2024年第1四半期の自動車用プラチナ需要は、7年ぶり高水準

2024年第1四半期の自動車セクターのプラチナ需要は、自動車生産の増加およびハイブリッド車のシェア拡大から恩恵を受け、26トンに増加し、2017年第4四半期以来の高水準となりました。加えて、プラチナを多く含む三元触媒の使用が増加したことからプラチナ需要が拡大し、特に北米における需要は前年同期比13%増となりました。

2024年の自動車用プラチナ需要は2%増の102トンになると予想されています。この背景には、バッテリー式電気自動車（BEV）に対する消費者需要の鈍化、大型車とハイブリッド車の台数増加の継続、排ガス規制の強化、パラジウムの代替としてのプラチナの増加（2024年は23トンに達すると予想）があります。

プラチナ宝飾品の需要が増加、インドにおける加工は53%増

2024年第1四半期の世界のプラチナ宝飾品需要は5%増の15トンとなりました。これは、インドにおける大幅増と、中国を除く大半の地域における増加に支えられています。インドのプラチナ宝飾品加工量は急増し、53%増の2トンに達しました。これは米国およびアラブ首長国連邦向け輸出が9倍に増加したこと、男性用宝飾品のプロモーションの増加、新規店舗の開店が要因です。その他の地域では、欧州における需要が2%増で過去最高に達する予想であるほか、北米では小幅な伸びが見込まれ、日本ではブライダル市場による需要の下支え、不況の中国市場では前年比微増が予想されています。2024年の世界の宝飾品需要は6%（+3トン）増加して62トンに達すると予想されています。中でも、インドの成長は欧州、北米、中国を合わせた需要増に匹敵します。

2024年の工業需要は引き続き堅調

昨年、工業需要を過去最高水準まで押し上げる要因となったガラスセクターおよび化学セクターの生産能力拡張サイクルが終了し、2024年には15%の需要減が予想されていますが、工業需要はコロナ禍前（2013～2019年）の平均を17%上回る70トンとなる見通しです。

化学セクターの需要は、2024年第1四半期が前年同期比52%減（-5トン）、2024年は33%減少し、過去の水準である16トンまで落ち込むと予想されています。同様に、ガラスセクターの需要も2024年第1四半期に117%増加（+3トン）しましたが、2024年通年では25%減の16トンになると予想されています。2024年には、医療セクター（+3%の9トン）と水素関連のアプリケーション需要（+128%の2トン）がともに成長すると予想される一方、石油（-1%の5トン）、電気（-1%の3トン）、その他の工業セクター（0%の18トン）の需要は、2023年とほぼ同水準で推移するとみられています。

2024年の投資は2年連続純増の見込み

2024年第1四半期の世界の地金・コイン投資は、日本と北米における前年同期比での大幅減少が、欧州と中国での増加を相殺し、2トンに減少しました。プラチナETFの保有高は全体で0.3トン増の96トンとなり、欧米ファンドの保有増加分が南アフリカの減少分の一部を相殺しました。

2024年のプラチナ純投資の予想は2年連続でプラスを維持し、3トンになる見込みです。北米では、地金・コインへの需要がコロナ禍前の水準を依然として上回っており、年内はこの状態が続くと予想されています。中国では、プラチナが金に比べて割安であると個人投資家に認識されているため、プラチナ投資は2トンに増加すると予想されます。欧州の投資は、高金利が原因となり、横ばいで推移する可能性が高いでしょう。一方、プラチナETFの保有高は4トン減の92トンになると予想されています。これは、高金利環境下で、利息を生まない資産への投資が引き続き手控えられているためです。取引所（ニューヨーク・マーカンタイル取引所と東京商品取引所 大阪取引所 from 東京商品取引所 の合計）の保有高は38%増加し、わずかではあるものの1トンに達すると予想されています。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのトレバー・レイモンド CEO は、次のように述べています。「プラチナ市場は 2 年連続で有意な不足となる見通しですが、これは世界経済が課題を抱えている中でプラチナの需給には脆弱な状態が続いていることを表しています。現時点の予想は 15 トンの不足ですが、新たな現地調査や情報に基づく地金・コイン投資の**予想修正**は、この不足がさらに拡大する**可能性があること**を示しています。私たちのデータを独立して供給している **Metals Focus** による継続的なレビューでは、中国で製造・販売されるプラチナ地金の力強い成長を確認しており、私たちの公表データには 500g 未満の地金を含めています。現在の需要データでは 500g と 1kg の地金を除外していますが、これら大きめの地金の販売量は 2023 年に 3 トンを超えており、2024 年に向けて力強い成長の兆しがありました。これらの投資用地金を需要データに含めれば、公表されるプラチナ市場の不足はかなり増加したことでしょう。」

「2024 年のプラチナ需要の大幅増加は、自動車のプラチナ需要が引き続き伸びていることから概ね予想されます。バッテリー式電気自動車の増加と、内燃エンジン車の生産台数の減少が予想されているにもかかわらず、このように予想されています。プラチナ需要は、排ガス規制の強化、内燃機関を搭載したハイブリッド車の増加、プラチナによるパラジウム代替の増加によって、高まっています。重要なことは、特定の自動車プラットフォームで一度プラチナがパラジウムの代替となると、たとえプラチナ価格が長期にわたりパラジウム価格を上回ったとしても、そのプラットフォームの 7 年間のライフサイクルを通じて、プラチナ需要が一定に保たれる可能性が高いということです。」

「一方、2025 年にかけて供給には下方リスクが見られます。とりわけ、鉱山においては、白金族のバスケット価格の大幅な下落が鉱山の採算に与える悪影響を**抑える**ために、生産計画の見直しや操業の再編が検討されています。供給の合理化計画は、短期的な下振れ効果だけでなく、需要増加やプラチナ価格上昇に対する**速やかな**反応を著しく制約することにも留意する必要があります。一方、リサイクル供給は依然として過去の水準を大幅に下回っており、予想される回復ペースにはリスクがあるため、回復に時間がかかり、不足がさらに拡大する可能性があります。」

「最後に、水素経済におけるプラチナの役割が本格化しつつあり、2024 年の予想では、プラチナの需要が有意なレベルまで大幅に増加する兆しが見えています。また、2024 年は、世界各国の政府から 3000 億米ドルを超える税制優遇措置や補助金の割当や配分が行われるため、水素関連のプラチナ需要がさらに加速する可能性があります。こうした傾向は、**徐々に**世界の脱炭素化に関連する資産に投資する世界の投資家の**プラチナへの**関心を集め、**投資手段**を提供しています。」

出典：Metals Focus 2020 - 2024

注記：

1. ** 2018 年 12 月 31 日現在の地上在庫 114 トン (Metals Focus)
2. † ノンロード自動車需要は自動車触媒需要に含まれます

-終了-

メディア関連のご要望は、**Elephant Communications** にお問い合わせください
wpic@elephantcommunications.co.uk

編集者への注記：

『Platinum Quarterly』について

プラチナ需給バランス (トン)		2020	2021	2022	2023	2024年予想	2023年H2 22年度成長率 (%)	2024年予想 23年度成長率 (%)	2023年第1四半期	2023年第4四半期	2024年第1四半期
供給											
製錬高		155	196	172	174	170	2%	-2%	37	48	38
	南アフリカ	103	146	122	123	120	1%	-2%	24	36	25
	ジンバブエ	14	15	15	16	16	6%	-1%	4	4	4
	北米	10	8	8	9	9	5%	0%	2	2	2
	ロシア	22	20	21	21	19	2%	-9%	6	4	6
	その他	6	6	6	6	6	-5%	7%	1	1	1
生産者備在庫における増減 (+/-)		-3	-3	+1	+0	+0	-1	-100%	+1	-1	+0
鉱山からの総供給量		153	193	173	175	170	1%	-3%	38	47	38
リサイクル		62	66	55	48	51	-12%	5%	12	11	12
	自動車触媒	47	50	41	35	37	-14%	6%	9	7	9
	宝飾品	13	13	12	11	11	-6%	5%	3	3	3
	工業	2	2	2	2	2	3%	7%	1	1	1
総供給量		215	259	228	223	221	-2%	-1%	51	57	51
需要											
自動車		71	77	86	100	102	16%	2%	25	25	26
	自動車触媒	71	77	86	100	102	16%	2%	25	25	26
	ノンロード	↑	↑	↑	↑	↑	N/A	N/A	↑	↑	↑
宝飾品		57	61	59	58	62	-2%	6%	14	15	15
工業		65	79	72	82	70	13%	-15%	20	23	19
	化学	20	21	21	24	16	17%	-33%	9	4	4
	石油	3	5	6	5	5	-18%	-1%	1	1	1
	電気	4	4	3	3	3	-16%	-1%	1	1	1
	ガラス	15	23	16	22	16	39%	-25%	3	10	5
	医療	8	8	9	9	9	5%	3%	2	2	2
	水素ステーションなど	1	1	0	1	2	114%	128%	0	0	0
	その他	15	16	17	18	18	4%	0%	4	5	4
投資		48	-1	-19	10	3	N/A	-69%	6	-2	2
	地金およびコインの増減	18	11	8	10	6	25%	-38%	4	2	2
	ETF保有高の増減	16	-7	-17	-1	-4	N/A	N/A	1	-4	0
	取引所在庫の増減	14	-4	-10	0	1	N/A	38%	1	-0	-0
総需要		241	216	198	250	236	26%	-5%	66	61	62
合計		-27	43	30	-26	-15	N/A	N/A	-16	-3	-11
地上在庫		81**	124	154	127	113	-17%	-12%			

『Platinum Quarterly』は世界のプラチナ市場を四半期毎に分析するもので、独立した立場で実施され無料で提供される業界初のレポートです。『Platinum Quarterly』は、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）の刊行物です。WPIC が委託し、プラチナ金属市場の権威ある独立機関である Metal Focus が実施した調査と詳細な分析に主に基づいて作成されています。

World Platinum Investment Council（ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル、WPIC®）について

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）は、現物プラチナ投資に関する世界市場の権威として、客観的で信頼できるプラチナ市場情報に対する、投資家の方々の強いご要望を受けて設立されました。WPIC の使命は、行動可能な見識と目標を定めた商品開発を通じて、現物プラチナに対する世界の投資需要を喚起することにあります。WPIC は、南アフリカの主要プラチナ生産者によって 2014 年に設立されました。WPIC の加盟会社は、Anglo American Platinum（アングロ・アメリカン・プラチナム）、Impalats、Northam Platinum（ノーザム・プラチナ）、Sedibelo Platinum（セディベロプラチナ）、Tharisa です。

詳細は、ウェブサイト www.platinuminvestment.com をご覧ください

WPIC ロンドン事務局所在地：World Platinum Investment Council, Foxglove House, 166 Piccadilly, London, W1J 9EF

WPIC 上海事務所：中国上海市浦東新区銀城路 8 号 ICBC タワー2301 号 World Platinum Investment Council

Metals Focus について

Metals Focus は、世界の大手貴金属コンサルティング会社の 1 つで、世界の金、銀、プラチナ、パラジウム、ロジウム市場の調査に特化し、定期レポートの発行、予測、個別のコンサ

ルティング業務を行っています。Metals Focus チームは 8 つの法域に分散し、世界中の多数の情報源を網羅しています。これを活かし、Metals Focus は、貴金属市場に関する世界レベルの統計、分析、予測を提供することに特化しています。

詳細情報は、ウェブサイト www.metalsfocus.com をご覧ください。

プラチナについて

プラチナは世界で最も希少な金属の 1 つで、独特の物性を持つため、様々な需要分野において高く評価されています。プラチナ特有の物性および触媒活性は、工業利用においてその価値を確立しました。同時に、貴金属としての独特な特質のため、高級宝飾品にも使用されています。

プラチナには、主に鉱山での生産とリサイクルの 2 つの供給源があります。後者は使用済み自動車触媒と宝飾品のリサイクルによるものが主流です。過去 5 年間の年間プラチナ総供給量（精製済みオンス）の 72%~78%は、鉱山で生産されたものです。

世界のプラチナ需要は堅調で、ますます多様化しています。プラチナ需要の 4 大主要分野は、自動車、工業、宝飾、投資です。

自動車触媒における過去 5 年間のプラチナ需要は、総需要量の 30%から 44%の間を推移しています。自動車以外の工業分野でのプラチナの多様な使用は、世界総需要量の 32%となっています（過去 5 年間の平均）。同様に、宝飾品における世界の年間総需要は、プラチナ総需要の平均 26%を占めています。投資はプラチナ需要の中で最も変動が大きく、過去 5 年間は総需要の-10%から 20%を占めています（投資家が保有する未公表の保有残高の変動を除く）。

免責事項

World Platinum Investment Council および Metal Focus のいずれも、投資に関する助言を提供するための規制機関による許可を受けていません。本書のいかなる部分も、投資に関する助言、証券もしくは金融商品の販売の提案または購入の助言を意図するものではなく、そのように解釈されるべきでもありません。投資を行う前に必ず適切な専門家による助言を受けてください。詳細は、ウェブサイト www.platinuminvestment.com をご覧ください